伸ばす！ 朝日新聞の活用例

―新学習指導要領が強調する語彙力、考える力もついてくる―

活用例① 天声人語を読み「要約力アップノート」にまとめる

最近の私立中学の入試では時事問題も増え、国語だけでなく理科、社会科でも新聞記事を使った出題が見られるようになってきています。

そこで、受験勉強で新聞活用を推奨している、花まる学習会の高濱正伸先生に朝日新聞紙面を用いる際のポイントを挙げてもらいます。

まずは子どもが興味を持った記事で「要約力アップノート」を作っていきましょう。

「分量の少ない『天声人語』（約600字）を例にとってみましょう。左写真のように200字に要約するには、コラム全体の3分の1の分量にしなくてはなりません。その際、5W1H（だれが、いつ、どこで、何を、なぜ、どのように）を意識すると、最低限の情報をまとめやすくなります」

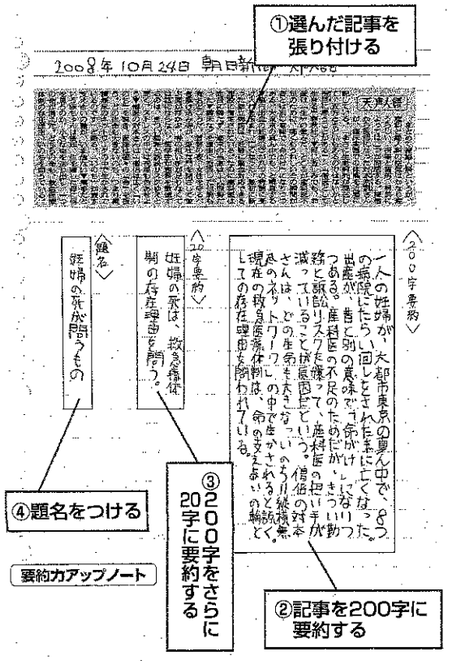
200字にまとまったら、次にその要約文を10分の1の20字に要約します。このときのコツは、絶対に外せないキーワードをもらさないこと（左の例では「妊婦」）と、原因とその影響、結果などをコンパクトにまとめることです。最後に自分で10字程度の題名を付けて完成です。

文章を要約する訓練は、論理的思考力をつけて国語力をアップさせることはもちろん、「問題文を読み解く力」をつけるうえでも効果的です。

「問題を解くには、まずそこで『何が問われているのか』を理解することが必須。要約力をつけることは、すべての教科に共通する、大切な要点なんです」

要約する記事は、親ではなく、子どもが選ぶことがポイント。

「どんな記事を選ぶかに『正解』はありません。大人がいいと感じるものを『与える』のでなく、子どもが自身の関心・興味に合った記事を『自分で選ぶ』ことが、主体性を養うと同時に、その後に続く学習の出発点となります。子どもが選んだ記事を否定せずに、認めてあげるようにしましょう」



活用例② いろんな記事で知識を吸収「言葉ノート」

新聞は、「言葉が豊富なこと」も特長のひとつ。中学入試にも出るような、注目される時事的・専門的な用語には、本文とは別に解説がついていることもあります。

「日常の言葉や表現が広く使われているため、漢字や語彙の勉強になります。朝日新聞の紙面から、分からない言葉を抜き出す『言葉ノート』を親子で作ってみるのもいいでしょう」

「要約力アップノート」や後述の「問題意識ノート」を作るとき、記事に出てきた言葉で、意味や読み方、使い方などを知らなかったものは、「言葉ノート」に、別途ピックアップしていきます。そして、国語辞典や用語集などで言葉の意味を調べ、書き出します。

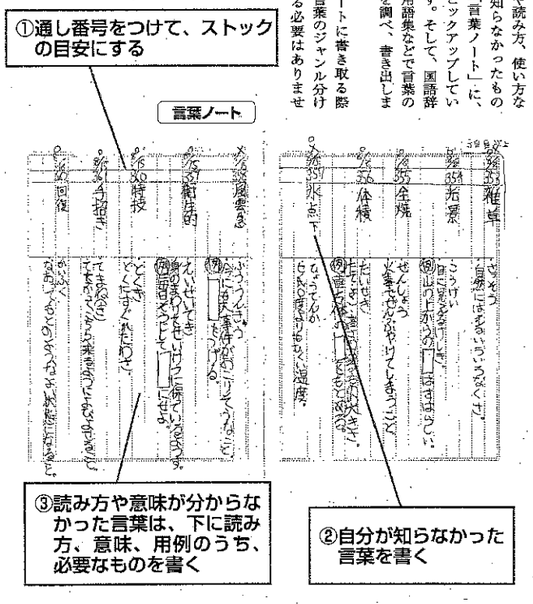
ノートに書き取る際は、言葉のジャンル分けをする必要はありません。通し番号をつけ、どれだけの数の言葉を書きとめられたか、励みにしましょう。

さらに、意味を勘違いしていたり、使い方を誤っていたりしていたことが分かったとき、「その言葉の何を間違っていたか」も一緒に書いておくと理解が定着します。

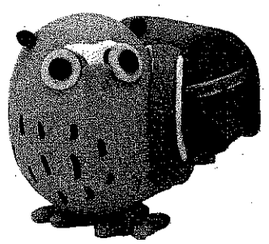
「他にも、新聞を読み進めていくと、初めて見る地名や国名が出てくることがあります。そのときは、辞書で調べるだけでなく、地図帳や地球儀を見て場所を確認したり、インターネットを使って情報を集めたりするなど、知らない言葉と同様、『調べる』という習慣をつけると、効果的な学習につながります」

親が知らない情報であれば、知ったかぶりをしないで「お母さんも知らなかった。じゃあ一緒に調べよう」と、ともに学ぶ姿勢を見せることが大切です。

新聞記事では、子どもだけの会話では出てこない言葉がたくさん学べます。語彙力は、国語力をはじめとする学力の基礎中の基礎。「言葉ノート」もしっかり利用しましょう。



知力、判断力、表現力を



新聞は中高受験に格好の教材です。ここでは要約力、語彙力、問題意識を高めるための、具体的な紙面活用法を見ていきます。ただ、小学生が新聞を読んで理解するには、親のサポートが必要です。親子で協力しながら取り組んでみてください。

活用例③ 時事問題にも敏感に「問題意識ノート」

最後に紹介する「問題意識ノート」は、「事実を踏まえて、自分はどう思うのか」という、子ども自身の「考える力」を伸ばす学習に役立ちます。

子どもが今起きている社会的な事柄について自分の意見を持つには、多様な考え方を知ったうえで、自分の思うところと照らし合わせ、思考をする過程が必要になります。そこで、「問題意識ノート」では、親や先生など、大人が選んだ記事を使って、子どもの思考力を育てます。

記事を選ぶ際は、客観的事実を述べた記事よりも、社説や署名記事など意見や主張まで書かれている評論記事のほうがやりやすいでしょう。そして、それを親子で読んで、互いに意見を言い合うのです。

まずは親が記事に対する意見を言い、その意見を子どもがノートに書き込みます。

「多少偏っていてもいいから、親が子どもに話すときは、意見は言い切ったほうがいいですね。子どもは、いろんな感化をくぐり抜けて自分の意見にたどりつく。だからさまざまな大人から話を聞けばいい。聞こえのいい意見だけでなく、率直な大人の意見を聞くことが大事です」

次は、子どもが自分の意見を書き出す番です。仮に大人が期待していた答えと違うものが出てきても、問題と向き合ったことを褒めてあげましょう。話を聞いた感想や意見は、子ども独自の感性によって生み出されたもの。認めてあげることで、子どもの自信や勉強意欲にもつながります。

「社会への問題意識を持つうえでも、『問題意識ノート』はとてもいいきっかけになります。新聞記事に、親の思いを加えて話すことで、ぜひ子どもたちの思考をゆさぶってほしいと思いますね」

親のリードが大切

「要約力アップノート」「言葉ノート」「問題意識ノート」。それぞれのまとめ方のポイントを、あらためて右に掲げておきました。個別のポイントとは別に、高濱先生は、親が子どもと一緒に向き合う際の基本姿勢として、こう注意を促します。

「強制的にやらせたり、子どもにやらせっぱなしにしたりという姿勢では、自発的な学習意欲は芽生えません。子どもが社会的な出来事にも関心を持ち、自ら知識や理解を深めようとする意欲を育むためには、子どもの『なぜ？』『どうして？』という疑問を刺激するように、うまくリードしてあげることが大切です」

例えば、「要約力アップノート」の題材記事は子どもに選ばせたほうがいいのですが、その記事の中にも、子どもには難しい社会的な背景があったりします。そこで、その背景を話してあげると、要約する際の観点も見えやすくなることがあります。

「言葉ノート」の場合は、一つの言葉を調べようとしたときに、同じ意味の言葉、似た言葉、まったく反対の言葉などを親が思いついたら、それも一緒に調べるようにすると、言葉への「関心の奥行き」がかなり違ってきます。

新聞を読むときに限らず、日常会話やテレビを見ているときなど、疑問に思ったことをすぐ調べられるよう、辞書や地図帳を身近なところに置いておくといいでしょう。

また「問題意識ノート」で親の意見を子どもに聞かせる際にも、「どうして、こんなことが起きると思う？」「ここがじつは難しいところで……」という具合に、子どもの「なぜ？」「どうして？」を誘い出すような言葉をうまく差し挟むと、子どもの関心を高めることにもなります。

この自発的な興味や関心が湧いてきてこそ、「新聞学習」がより意味のあるものになるのです。

高濱正伸
たかはま・まさのぶ 東京大学大学院修了。学習塾「花まる学習会」「スクールFC」を主宰。

ポイント

「要約力アップノート」
- 5W1H（だれが、いつ、どこで、何を、なぜ、どのように）を意識して要約する
- 子ども自身が興味を持った記事を選ぶ

「言葉ノート」
- 知らなかった言葉・地名などは、すぐに国語辞典や地図帳で調べる
- その言葉の何を間違っていたかも書いておく

「問題意識ノート」
- 社説や署名記事など、人の意見が載っている記事を選ぶと、意見がまとめやすくなる
- 親が子どもに意見を言うときは、意見をあいまいにせずに、はっきりと言い切る

ほかにもある！こんな新聞記事の使い方

- 記事の中から「さんずい」のついた漢字を探す、ことわざを探す、四字熟語を探すなど、親子でゲーム感覚で競争する
- スポーツ記事を使って、野球の打率を求めるなど、割合の勉強をさせる
- 小説や記事などを読み、そこからイメージした絵を書かせる
- 季節の写真などからイメージする文章を書かせる